

真下 紀子

氷点橋交差点 交通事故多発交差点を調査



氷点橋のたもと、神楽1条8丁目交差点で交通事故が多発していると、対策を求める要望が住民の方から寄せられました。4月12日、上川総合振興局建設管理部の担当職員と旭川市議団とともに現地調査しました。

「早急に対策を！」

現場は旧開発局前を通る片側1車線の市道と、氷点橋から神楽に向かう片側2車線の道道の交差点です。交差点の中央部が盛り上がり、道路に高低差があります。市道から右折する際に路面の確認が難しく、右折を誘導する路面の白線も冬場を超えたため消えていました。

安全対策のために中央分離帯に設置された点滅式の標識も倒れ掛かって、衝撃の強さが想像できません。安全確保のため、上川建設管理部門は早急に対策をとると説明しました。

道路幅が異なる交差点では、中央部が高くなりがちで歩行者の安全確保のために中央分離帯が交差点側にせり出しています。こうした交差点では走行の際には注意が必要です。

事故に気をつけて

連休中悲惨な事故が続きました。春になり、スピードを出してしまいがちですが、スピードは控えめに、交通事故には気をつけましょう。

道議会報告に市民の声

「妊産婦支援いいこと」

毎週土曜日の昼12時から買物公園で定例の道議会報告をしています。市民の方からいろいろのご意見をお寄せいただいています。

「遠くの病院で出産する時に妊産婦さんに支援するのはいいことだ」と若い男性からの声。「旭川 札幌間のSきつぷフォーの廃止は本当に不便になる」と苦情が寄せられ、J R北海道の安全と利便性を道議会で質問しました。

「安倍さんはやりすぎ。戦争にならないように頑張って」など激励もいただいています。

これからもご意見・ご要望をお寄せください。

ストップ! ムダ使い

子どもの貧困対策、内需拡大に5つの柱で組み替え予算を提案

共産党道議団は、第1回定例会の最終日、2016年度予算を5つの柱で抜本的に組み替える動議を提案しました。賛成は4人で否決されましたが、この方向を堅持して道政をチェックし、一歩でも前に進め、実現に向けて具体的な提案を続けていきます。

不急の道路は見直しを

先の予算議会で道議団は、開発道路から道道に移譲された富良野上川線が100億円以上を費やしたにもかかわらず、わずか1か月の利用で通行止めとなっている実態を改

めて指摘しました。高橋知事は、同様の美唄富良野線と名

寄遠別線の2路線の工期を延長、総事業費で131億円もの膨大な増額を認めています。また、厚幌ダムは1年足らずで2回にわたる120億円もの増額です。巨額の税金を費やす大型公共事業、中止を含めて必要性を厳しく見直すよう求めました。

貧困対策・内需に予算を

道税収入は黒字企業の課税率が引き下げられ、低所得の

道民や赤字の中小企業からの納税が増えており、格差を広げ、消費を冷え込ませる要因となっています。そのため貧困対策や内需拡大など、以下の5つの柱で組み替え予算を提案しました。

子どもの貧困対策と子育て・教育・医療福祉の拡充、良質で安定した雇用環境の拡大と担い手対策、地方交通の整備、不要不急の公共事業の見直し、再生可能エネルギーの普及と原発ゼロへ

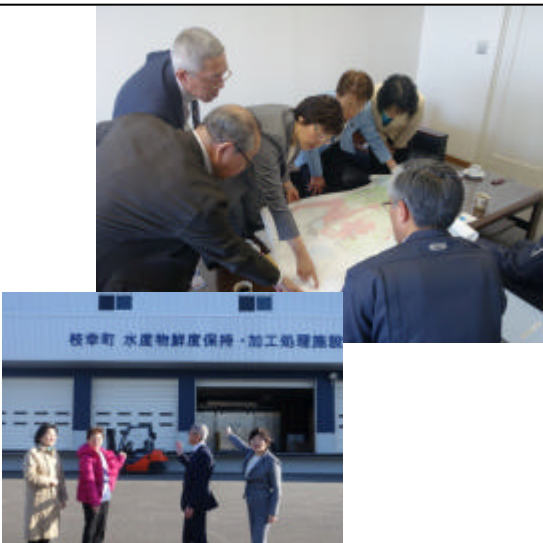


オホーツク海の漁業振興調査へ

オホーツク海地域は本道漁業生産の3割を占める重要な地域です。近年の爆弾低気圧による影響や新たな漁場造成への課題など、宗谷管内の漁業振興を支援するため3月に現地調査に向かいました。

海底の変化つかむ図面作製を

枝幸漁協と頓別漁協を訪ね、漁業生産を拡大していくための課題などについて意見を伺いました。爆弾低気圧などのために海底が大きく変化していると予想されます。漁場の海底を把握する漁場図の作成から30年以上が経過しましたが、更新されて



いません。「ホタテの漁場を沖に広げるためにも必要」と話され、実際の図面を示して説明を受けました。

巨大な魚礁の撤去を！

道はこれまで水産資源の定着のためコンクリート製の魚礁施設を設置してきましたが耐用年数が過ぎ、ヒトデ佃処になるなど弊害もでていままホタテ漁場を沖へ拡大するために移設の要望がありました。ふトンのものはとて動かせないので、漁業者だけでは解決できない課題も見えてきました。

真下議員は、5月の水産林務委員会でとりあげ解決に向けて尽力していきたいとのべました。調査には菊地葉子議員、佐野弘美議員と、野口洋郎枝幸町議が同行しました。

ほっと一息

怒涛の勢いで過ごした第1回定例道議会、新人議員3人は目覚ましい働きでした。季節はすっかり桜色芽吹きの季節ですが九州熊本・大分地震の被害にあわれたみなさんが、一日も早く安心して暮らせるようにと願わずにはいられません。地震活動が広がっても稼働中の原発は止めないという安倍政権ですが、いつどこで大地震が起こるかわからない地震大国日本で、安全に原発を稼働させられるのか不安です。豊かな自然をエネルギーに変え、地域の財政にも貢献するエネルギー政策へチェンジしていくために、泊原発停止から4年となる5月、いつそがんばっていきます。



自然エネ、地域経済に生かそう

原発事故前から

自然再生エネルギーを地域経済に生かそうと、福島第一原発事故前からとりくむ浜頓別町を訪ねました。



風力発電「はまかせちゃん」(出力990キロワット)は、2001年にNPO法人北海道グリーンファンドの会員の電気料金の一部と、賛同する個人

団体の出資で建設されました。また廃校となった小学校のグラウンド跡地などの町有地を使い、太陽光発電施設を建設。今年2月から北電への売電を開始しています。福島第一原発事故が起きる10年前から「原発や化石燃料に頼らないまちづくり」をめざしてきました。南尚敏副町長は自然エネルギーの導入推進について、「エネルギーの地産地消を地域経済に生かしたい」と抱負を話しました。

真下議員は「原発に投じる財源を道北の脆弱な送電網にまわすなど政策転換も求めたい」と述べました。

浜頓別町の魅力にひかれて移住しその後、町議会議員となった宮崎美智子浜頓別町議が同行しました。